

編集後記

(61巻 第1号 2015年1月)

キシュ島での UAA が始まった。まず学会の朝一番がコーランと国歌斉唱で始まるのに驚いた。ビジネス会議では、内藤誠二理事長にプレゼンテーションをお願いし、投票の結果2018年の UAA 本会の日本開催が決定した。また、長年の懸案であった UAA の会費問題も、国別の会費設定という形で一步前進した。これで4年間お引き受けした私の Secretary General としての役目は果たせたと思う。

結局、キシュ島ではお酒はまったく出なかった(実際には、シンガポールから来た泌尿器科医が勇敢にも持ち込んだウイスキーを少々およばれた。)。キシュ島は周囲が80キロ程度の小さな島で、イラン革命前にはカジノやゴルフ場もある本格的なリゾートで、ヨーロッパから多くの旅行客がきていたらしい。しかし、革命後は「忘れ去れた島」になったという。今はリゾートとしての再開発が始まっているようで、8割くらいのビルが建設中といった状況だった。

酒好きグルメには厳しい旅行だったが、キシュ島の空気はハワイのように気持ち良かった。滞在中はまったく雲のない快晴で、海の向こうには赤土色のイラン本土がはっきりと見えた。また、女性が本当にきれいだった。旅の最後には宮崎からの同伴者のゴルフ練習棒が手荷物検査でひっかかったことは言うまでもない。

(小川 修)